

# 紙相撲新聞

第158回本場所  
十日目～千秋楽号

編集・発行  
日本紙相撲協会

# 若ノ嶋 逆転優勝

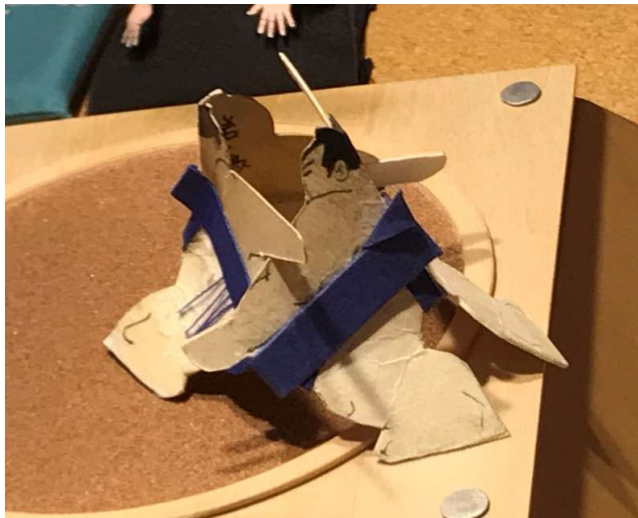
## 史上空前の横綱大関四つ巴を完全制覇

### 決定戦でも春ノ翔を下し、意地の優勝

〔第百五十八回本場所十日目千秋楽〕

4月30日に十日目と千秋楽が開催され、69年の歴史がある紙相撲史上初の3横綱1大関による優勝争いに終止符が打たれ、大方の予想を覆して、横綱若ノ嶋が逆転で4回目の賜杯を手にした。

十日目を終えて、千代鈴、若ノ嶋、春ノ翔の3横綱が9勝1敗の横一線で優勝争いの先頭に立つという、これも紙相撲史上初で千秋楽を迎え、春ノ翔が大神楽を下して優勝決定戦に駒を進めると、結びで若ノ嶋が千代鈴に勝つ



↑ 10勝1敗横綱同士の優勝決定戦は史上初。若ノ嶋は本割りの勢いそのままに春ノ翔を力強く寄り切った。



↑ 千秋楽結びの一番は1敗で並んだ千代鈴若ノ嶋の一戦は千代の出足に圧倒されながらも若嶋が辛勝。

て、若ノ嶋と春ノ翔の優勝決定戦となった。

過去の対戦成績が9勝9敗とまったく互角の若ノ嶋と春ノ翔による優勝決定戦で、若ノ嶋が春ノ翔を寄り切って大いに盛り上がった本場所の優勝争いが決着した。

三賞は、敢闘賞が烏帽子岳（2回目）と大渡海（初）の2力士。殊勲賞、技能賞は該当者なしとなった。大渡海の敢闘賞初受賞が千秋楽取組み前に決まり、千秋楽に割が組まれた烏帽子岳と大渡海の対戦で、烏帽子岳は勝てば敢闘賞という相撲に勝って9勝目という賞となった。

今場所は横綱大関が、若ノ嶋以外は左下に全勝したことで、殊勲賞、技能賞は該当者なしとなった。三賞の内、2つの賞

優勝	殊勲賞	敢闘賞	技能賞	十幕	三幕	序二段	序の口
若ノ嶋	烏帽子岳	大渡海	(該当なし)	桃乃洲	松山	戸田	紅華
十勝一敗	九勝二敗	八勝三敗		八勝三敗	五勝	五勝	五勝
(4)	(2)	(初)		(初)	(初)	(初)	(初)

で「該当者なし」となったのは、第140回以来で2回目のこと。上位が強かったという証の現われということだろう。

九日目を終えた時点で、横綱千代鈴がただ一人9戦全勝で優勝争いの先頭に立ち、これを横綱若ノ嶋、横綱春ノ翔、大関大神楽の3人が1敗で追う展開となり、優勝争いはこの4力士に絞られ、2敗となった時点で優勝争いから脱落となる。

「こんな優勝争いは紙相撲69年の長い歴史の中でもなかったことだよ。徳川さんの時代にもなかったことだよ。紙相撲協会創設70周年に相応しい場所になったよな。」と朝日松理事長が興奮げに語る。

現在、大相撲は1横綱1大関だが、横綱照ノ富士は怪我で休場続き、大関貴景勝も絶対的に強いとまでいわず、平幕を含め誰が優勝するかわがらずに毎場所優勝力士が入れ替わるという混戦状態だが、今場所の紙相撲は本来の番付地位に相応しく横綱大関が絶対的な強さを誇って下位を寄せつけず、横綱大関で優勝を争う理想的な展開となった。



九日目から3横綱1大関の総当たり対戦が始まり、千代鈴が大神楽に勝ち、若ノ嶋が春ノ翔に勝っての明けて十日目は千代鈴と春ノ翔、若ノ嶋と大神楽の対戦。

まずは若ノ嶋と大神楽が土俵に上がると、場内から自然と拍手が湧き起こった。大神楽は今場所は関脇以下には負けなしと絶好調。「磯ノ海さん、大神楽が優勝したら、来場所は綱取りだよ！」と朝日松理事長。もし、大神楽が横綱昇進となれば、紙相撲史上初の4横綱となる。

両者の慎重な仕切りを見ながら「綿風さん、若ノ嶋と大神楽の対戦成績は若ノ嶋の6勝9敗だけど、最近はどうなの？」と鹿賀乃戸親方。「このところ若ノ嶋が勝って、対戦成績を詰めているよ！」と綿風親方。

確かに若ノ嶋は以前は大神楽を全く苦手にしていたが、最近では4連勝している。ともに1敗の両者だけに、負けた方が優勝争いから脱落という一番。

行司の軍配が返り両者五分の立合いだったが、このころ攻勢に出る若ノ嶋が向正面に大神楽を寄り立てるも、これを左に回って残す大神楽。磯ノ海親方が終始「押せ！押せ！」と大神楽に声援を送るが、大神楽は得意の左を差すことができず、若ノ嶋が正面に寄り進むと堪えきれずに土俵を割った。



若ノ嶋○(寄り切り)●大神楽

「よし！勝ったー！」と錦風親方。「差せなかつたかあ！」と落胆の磯ノ海親方。これで大神楽が優勝争いから脱落した。

結びは千代鈴と春ノ翔の横綱対決。対戦成績では春ノ翔が4勝2敗と分がいい。千代鈴の師匠の春日根親方は所用で十日目の取組には間に合わないとのことだったが、寸前のごとくで国技館に到着。

「千代の取組に間に合ったね！」と鹿賀乃戸親方が言うと、「気がでないので、間に合った方が良かったのかどうか？」と春日根親方。